

## 政策創造員による調査・研究活動の中間報告について

政策会議資料  
令和元年 10 月 21 日  
戦略企画部企画課

## 1 調査・研究の目的

新しい三重づくりのための政策創造及び提言を行うとともに、政策創造員の政策創造能力の向上等を図ります。

## 2 中間報告の位置づけ

研究テーマに関する課題、研究目標、現在までの到達点、最終報告に向けた課題等について、豊富な知識と経験を有する幹部職員に中間報告を行い、ご意見、ご指摘をいただきます。

## 3 調査・研究テーマ

中長期的かつ部局横断的な課題等を対象に、既存の枠にとらわれず幅広い視点から調査・研究に取り組むこととしています。

【各 WG の調査・研究テーマ】

テーマ	調査・研究の概要
WG1 :  「東紀州へ集え！若者よ！～ICTで創る未来～」	<p>昨今、都市部への人口流入が続く一方で、地方の過疎化が深刻化するという「人口の地域間格差」が日本中の様々な地域において問題となっているが、三重県内においても、将来の地域社会の担い手である若者が流出することにより、過疎化が進んでいる地域が多く存在する。</p> <p>県内の各地域の人口減少率を分析すると、特に東紀州地域において若年層の地域外への流出が著しく、このまま対策を講じなければやがて地域から若者がいなくなり、地域が消滅することが考えられる。</p> <p>本研究においては、東紀州地域の経済停滞および急激な人口減少を改善する取組として、「ICT関連企業の誘致」と「地域における高度ICT人材の育成」の2点について調査・研究を行う。</p>
WG2 :  「新時代の価値と成果を創造する」コンサルティング型窓口の創設に向けて	<p>今後、少子高齢化やニーズの多様化等、変化する社会情勢に対応してくためには、県民や企業等との協創を発展させ、県が抱える課題解決に向けて、新たな価値や成果を出せる仕組みを創っていく必要がある。</p> <p>本研究では、地域が持続的に活性化する社会の実現を目指して、「三重県の課題解決力強化を目的とした協創の仕組みづくり」に着目し、行政が県民や企業等から幅広く課題、提案等を収集し、課題解決に向けた分析・コンサルティングを行う協創窓口の創設やその仕組み、あり方を提案する。</p> <p>あわせて、課題解決に向けた協創のロールモデルについても検討を行い提案する。</p>

テーマ	調査・研究の概要
<p>WG3 :</p> <p><b>2060 未来の三重 若者が考える自分たちのまち</b></p>	<p>生産年齢世代の人口減少に伴い、県の財源・人材が減少し、従来の行政サービス（フルセット型）の提供に限界が訪れることが見込まれるなか、これからは県民一人ひとりが県のありかたを自分ごととして考えるアクティブシチズンとなり、行政と協創し、主体的に地域の課題を解決することが、行政と県民の望ましい関係である。</p> <p>一方、現状は県民が行政に参画する仕組みが不十分であり、地域の課題についての当事者意識が生まれにくい。</p> <p>そこで本研究では、本県に適した県民の行政への参画手法、特に若者を対象とした参加型予算のあり方について検討する。未来の三重を担うとともに、2060 年に老年世代を迎える年齢層である若者が、地域の課題を自分ごととしてとらえる仕組みを作ること、まちづくりに対する当事者意識を醸成していくことを狙いとする。</p>
<p>WG4 :</p> <p><b>県民の幸福実感増加のために、働き方を通じて必要な収入が得られる社会の実現</b></p>	<p>三重県では有効求人倍率が年々上昇している状況であるが、県民意識調査における政策分野「雇用の確保と多様な働き方」に対応した幸福実感の指標「(14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」を実感している割合は全 15 指標中最下位が続いています。</p> <p>三重県は、「幸福実感日本一」をめざしており、当該指標を向上させることが、県民の幸福感の向上につながるのではないかと考えました。</p> <p>本研究では、令和の新時代を迎え、AI の導入、副業解禁などの働く環境も変化する中で、県民のみなさんが「働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得る」ために県庁が果たす役割を検討します。</p>

#### 4 報告のポイント

- 目的と研究の流れ（どういう考え方でどのように進めてきたのか）
- 現在までの到達点（これまで何が明らかになったのか）
- 最終報告に向けた課題（今後の作業に向けた課題は何か）

#### 5 今後の予定

以降、政策創造員会議および各 WG 個別ミーティングにて調査・研究を進めていきます。

平成 31 年 1 月 29 日（水） プレ最終報告会（政策創造員会議）  
平成 31 年 2 月中旬 最終報告

## 令和元年度政策創造員名簿

### ■ WG1 : 「東紀州へ集え！若者よ！ ～ICTで創る未来～」

部局等名	所 属	職 名	氏 名
防災対策部	防災企画・地域支援課	主事	仲 貴之
戦略企画部	戦略企画総務課	主事	大井戸 理香子
農林水産部	林業研究所	主査	樋口 大輔
企業庁	企業総務課	主事	野添 俊太郎
教育委員会事務局	教育総務課	主任	中村 圭吾

### ■ WG2 : 「新時代の価値と成果を創造する」コンサルティング型窓口の創設に向けて

部局等名	所 属	職 名	氏 名
総務部	財政課	主査	田川 浩隆
医療保健部	ライフイノベーション課	技師	清水 美緒
子ども・福祉部	子ども・福祉総務課	主任	岡田 慎也
環境生活部	地球温暖化対策課	主事	中村 知美
環境生活部	廃棄物適正処理PT	主任	片山 裕規

### ■ WG3 : 2060 未来の三重 若者が考える自分たちのまち

部局等名	所 属	職 名	氏 名
農林水産部	農産園芸課	主査（班長代理）	長野 伸悟
雇用経済部	国際戦略課	主事	山際 彩水
雇用経済部	ものづくり・イノベーション課	主任	木村 禎志
県土整備部	県土整備総務課	主任	田上 摩織
出納局	出納総務課	主任	黒宮 弘喜

### ■ WG4 : 県民の幸福実感増加のために、働き方を通じて必要な収入が得られる社会の実現

部局等名	所 属	職 名	氏 名
戦略企画部	企画課	主査	西窪 大輔
戦略企画部	政策提言・広域連携課	主事	市川 雄大
地域連携部	交通政策課	主査	坂倉 雅士
農林水産部	伊勢農林水産事務所	主任	山根 未怜
県土整備部	防災砂防課	技師	清水 千尋